

南相馬市から日本初の種類のオウムガイ類を発見！

ポイント

- ① 三笠市立博物館、南相馬市博物館、福島県立博物館等の共同研究グループが、南相馬市から新たにオウムガイ類化石2標本を発見。
- ② 2標本とも日本から初発見の種類であり、太平洋西部のオウムガイ類の進化史の解明に貢献。
- ③ うち1標本は日本の中生代から発見されたオウムガイ類化石としては最大級。

概要

1 オウムガイ化石2標本の概要

(1) 鈴木標本

分類 シュードノーチラス属（日本初発見）※属は種の上位分類、科の下位分類

発見者 鈴木 颯一郎 氏（東北大学地学ゼミナール）

発見地 南相馬市鹿島区内

地層 相馬中村層群 小山田層

年代 中生代白亜紀ベリアシアン～バランギニアン（約1億4500万年前～約1億3260万年前）

所蔵者 福島県立博物館

(2) 西標本

分類 パラセノセラス属（日本初発見）

発見者 西 夏輝 氏（相馬中村層群研究会）

発見地 南相馬市鹿島区内

地層 相馬中村層群 中ノ沢層

年代 中生代ジュラ紀キンメリッジアン～チトニアン（約1億5480万年前～約1億4500万年前）

所蔵者 南相馬市博物館

2 共同研究グループメンバー

唐沢與希^{からさわともき}（三笠市立博物館）・鈴木颯一郎^{すずき そういちろう}（東北大学地学ゼミナール）・西夏輝^{にしなつ き}（相馬中村層群研究会）

二上文彦^{ふたがみふみこ}（南相馬市博物館）・猪瀬弘瑛^{いのせひろあき}（福島県立博物館）

3 経緯

鈴木氏と西氏が発見したオウムガイ類化石について、2022年から共同研究を進めてきました。研究結果は1月27日（土）に東北大学で行われた日本古生物学会第173回例会で発表しました。

4 発見の意義

生きている化石として知られているオウムガイ類の現生種は、太平洋西部にのみ生息しています。と

ころが中生代ジュラ紀には、現在のヨーロッパや北アフリカ周辺に存在したテチス海ではオウムガイ類が繁栄していた一方、日本を含む太平洋西部では、オウムガイ類の化石はほとんど発見されませんでした。しかし、続く白亜紀の間に、太平洋西部でのオウムガイ類の化石記録が増加します。よって、ジュラ紀-白亜紀境界以降に、テチス海からオウムガイ類の流入が促進されるイベントが起きた可能性があります。太平洋西部ではこれまでに相馬中村層群から1例あった以外には、九頭竜層群（福井県）と山部層（大分県）から1例ずつの計2例しかこの時期のオウムガイ類化石が発見されておらず、詳しい研究ができませんでした。以前から知られていた1科1属を含めて、3科3属のオウムガイ類化石が相馬中村層群から発見されたことは、こうした太平洋西部のオウムガイ類の進化史を解明する大きな手がかりになります。

さらに鈴木標本は、直径が312.7 mmと日本の中生代オウムガイ類化石としては最大級です。日本を含む太平洋西部の中生代の地層から、オウムガイ類化石は当時繁栄していたアンモナイト（アンモノイド）化石と比べると、少数しか見つかっておらず、大きさや形の多様性も高くはありませんでした。そうした状況であっても、オウムガイ類も一定の形態的・生態的多様性を有していたことが、今回の発見から分かります。

今回の研究は、博物館に所属する研究者と、地域の方々との協力によって進められました。地域の方々との協力によって、今後もさらなる発見が期待されます。

5 展示

鈴木標本については、福島県立博物館のポイント展「発見！ 日本初の種類のオウムガイ類」（会期：2月1日（木）～3月1日（金） 場所：エントランスホール 観覧料：無料）で展示します。西標本については、南相馬市博物館で2月1日（木）から展示します。

	時代		地層	オウムガイ
約1億3260万年前	中生代	白亜紀	小山田層	鈴木標本
約1億3980万年前				
約1億4500万年前		ジュラ紀	富沢層	
約1億4920万年前			中ノ沢層	西標本
約1億5480万年前				

図1. オウムガイ類化石を産した地層とその年代。ジュラ紀のキンメリッジアンより前と、白亜紀のバランギニアンより後の時代は省略。

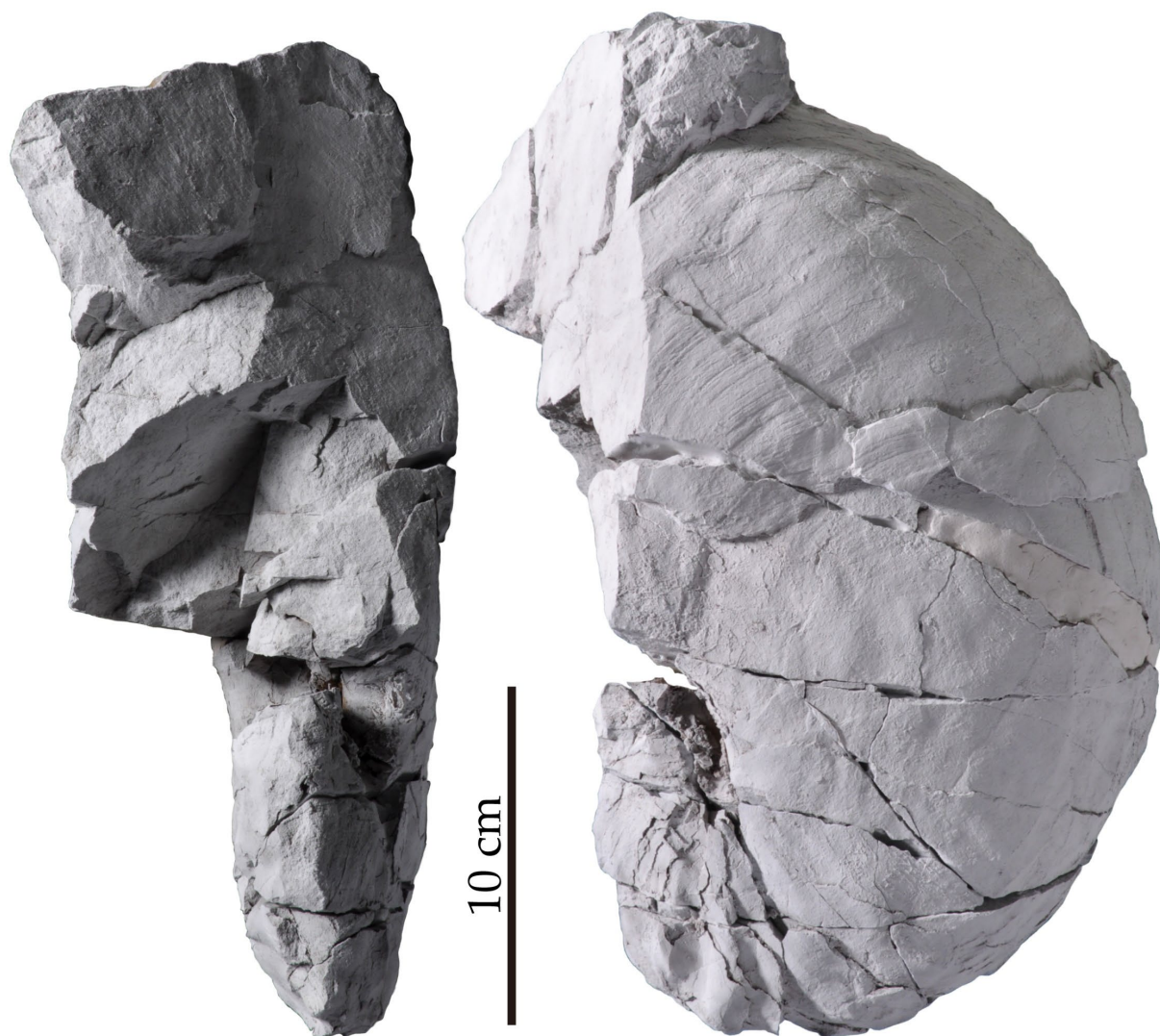


図 2. 発見されたシュードノーチラス属 (鈴木標本). 写真撮影のためにホワイトニングしたもの.



図 3. 発見されたパラセノセラス属 (西標本). 写真撮影のためにホワイトニングしたもの.

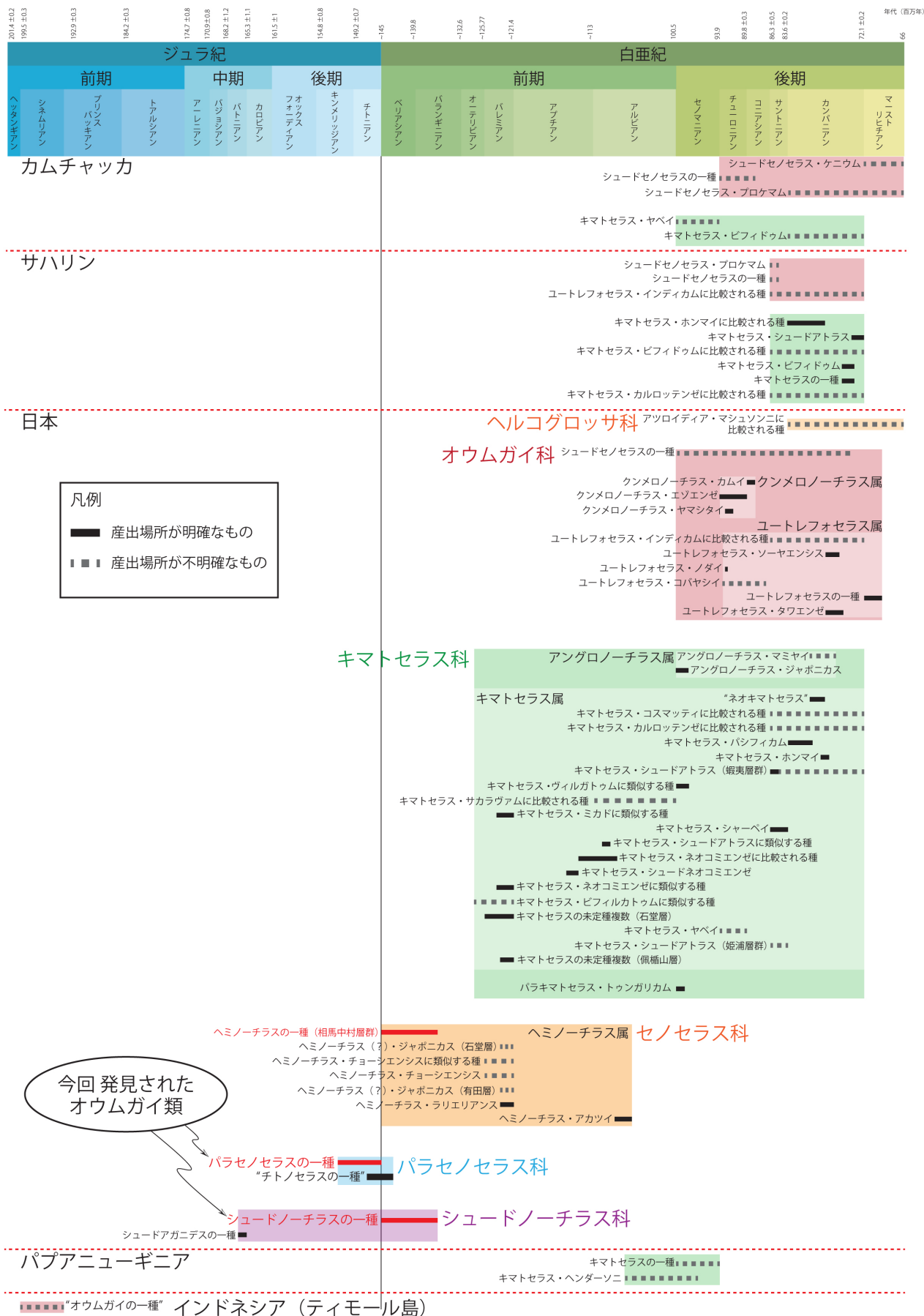


図4. 日本を含む太平洋西部のジュラ紀～白亜紀のオウムガイ類の産出レンジ。

配信元

福島県立博物館 副館長 高橋充 (〒965-0807 福島県会津若松市城東町 1-25)

T E L 0242-28-6000 F A X 0242-28-5986 メール general-museum@fcs.ed.jp